

## 女子大生向けフリーマガジン「Lily」でインタビューを受ける早川先生！

首都圏の女子大を中心に配布されているフリーマガジン Lily 23号に早川先生のインタビューが掲載されました。

英語講師になったきっかけや、実は、高校2年で英検4級に落ちたというエピソードなど興味深い話がたくさん！「僕が一番教えたいのは、英語初心者の人たち。自分自身が英語を不得意だったので、わからないということがわかる強みを活かしたいと思っています。つまづいているところで一緒に悩んで、できるようになる体験を共有したいな、と思うんです。そのために、答えの一手手前まで教えて、『だから答えは？』って聞く。キーパーのいないゴールに向かって、僕が直接ボールを蹴ってもいいんだけど、あえて生徒にパスを出す感じかな。よっぽどのことがない限り決まります。どこまで説明するか、本当に気をつけていますね。」



## 最後に、英語を学ぶ学生へのメッセージ。

「学生にとって、英語は国語・算数・理科・社会とならぶ五教科の中の一つ、というイメージかもしれませんが、むしろ本当は、体育・美術・技術のような実技科目なんです。体育にたとえて言うなら、英会話学校が試合で、そのためにどれだけ練習するかで上達が決まるんですね。英語は身につけたら一生楽しめるし、旅行もいける、友達も増える、視野も広がる。日本語を好き嫌いで判断しないように、英語も好き嫌いで判断しないで、言葉として楽しんでもらえたらなあ、と思います。楽しむ気持ちが一番重要なんです。僕は今では、英語自体というよりも、英語の授業や執筆を楽しんでいる自信があります。イチローが野球を楽しんでいるのと同じくらいね。」

TOEIC® 対策専門講師

早川幸治さん

**英語は体育のような実技科目  
楽しむ気持ちが一番重要なんですよ**



TOEIC対策専門講師として明海大学や桜美林大学などで教鞭をとるかたわら、TOEIC関連の著書を多数執筆し、Jayというニックネームで親しまれている川川幸治さん。彼が考案した独自のメソッドは、英語に悩む多数の生徒の救いとなっている。今回のインタビューでは早川さんに、彼自身の人生の軌跡や、英語との向き合い方について、お話を伺った。

## クリントンへの憧れ

「高二で進路について考えていた時に参加した専門学校の説明会に、つだけ英語の専門学校があったんです。どれくらい英語ができればいいの？と聞くと中三くらいいいです、と言われて。それならなにかなりそうだと、その学校に入るの、って思いつき決めちゃったんです(笑)」。この冗談のように話す早川さんだが、実際のところ、高二までは英語は苦手な全く興味もなく、高二の十月には中二レベルの英検四級にも不合格だったという。しかし、その冬に転機が訪れる。何の前触れもなく、英語が好きになったのだ。



はやかわ こうじ

新進気鋭のTOEIC(R)対策のスペシャリスト。満点取得後もTOEIC(R)を毎回受験し、傾向を徹底分析。その実力を買われ、現在大学などでTOEIC(R)対策指導にあたる。セミナー・講演会を精力的にこなすかたわら、TOEIC(R)関連の著書や雑誌の連載も多数。愛称はJay。

点をとれるままになっていました。当時は英語で独り言を言うようにしてました(笑)」。専門学校に在学中に英語力以外で学んだことは？とお聞きすると、現在多数の生徒を前に講義を行っている早川さんの口からは、意外な答えが返ってきた。

「人前で喋るっていうのがずっと苦手だったんですよ。授業中に発言するっていうすらできないくらい。でもその頃ちょうど大統領選挙の時に、クリントンが何万人もの前で喋ってたんですよ。それを見て、かっこいいなって。人前に出るのが苦手なくせに、目立ちたがり屋などころがあるんです。クリントンにあげられて、もうクリントンが自分のロールモデルだ、くらいの気持ちで、それで自分もなんかやりたいと思って、スピーチコンテストに出るとにしましたんです。たった五分間のために、四カ月準備をしました。実際に前に立ってみると、緊張はしましたが、それ以上に気持ちよかったですね。準備をすれば何でもできる、っていうのに気づいたことが、あの二年間では一番大きかったかもしれませぬ」。

専門学校を卒業した早川さんは、何か英語以外のことも学んでみたいと思いい、四年制の大学に入りなおした。しかしそこでも、専攻したのは国際関係、入ったサーク

ルはESS。二つをつなぐ共通点はやはり、英語だった。それでも、早川さんは入学卒業後すぐに英語講師になったわけではない。実は、早川さんが最初に選んだ職業はSE(システムエンジニア)だったのだ。

「就職を考えた際、消去法で残ったのが英語とコンピュータで、両方できるSEとしてとりあえず働き始めたんですが、相手はパソコンの画面だけ。何が違うのかも全然言ってくれない。合わないなっていう気がしてしまっただけです」。

## 英語講師の道へ

SEをやめ、英語講師への転身を決意した早川さん。大好きな英語を使いながら、人間相手にできる仕事だが、最初は失敗ばかりだったという。そんなとき、今はコメンテーターとして有名な齋藤孝先生の講演を聞きに行ったのだ。

「齋藤先生は、学校の国語の教科書を本屋で売ったら絶対売れませぬよ、という話をされたんですが、自分の授業も売り物になりそうもないな、とそのとき気づいたんです。自分の授業という商品を、生徒とお客さんが買ってくれるわけだけ、九〇分も時間かけてとんでもない商品出されたら、やる気も無くなります」。

よね。僕はまだ経験が足りないとはいいえ、そんな授業をするのは難い、と強固思っています」。

そこから早川さんは、生徒をひきつける授業をするために様々な努力をしたそう。授業についてはいちもろろん、授業の合間に持ち帰る雑誌にもこだわった。

「お笑いの人って自然に見えるけど、実はすごく準備してますよ。島田紳助とか。あれだ！と思っ、授業の展開と一緒に雑談も準備するようになったんです。ネタ帳まで作りましたからね(笑)。生徒が楽しそうに聞いてくれるようになつて、僕自身やっとなり、授業が楽しめるようになった。それと同時に、ようやく商品になつてきたかな、と思ひ始めましたね」。

## 英語を学ぶ人のために

「僕が一番教えたのは、英語初心者の人たち。自分自身が英語を不得意だったんで、わからないうというところがわかる強みを活かしたいと思っ

ています。つまづいているところで一緒に悩んで、できるようにする体験を共有したいな、と思っんです。そのために、答えの一手前まで教えて、「だから答えは？」と問。キーパーのいないゴールに向かって、僕が直接ボールを蹴つてもいいんだけど、あえて生徒にパスを出す感じか

な。ちがひのことがない限り決まります。どこまで説明するか、本当に気をつけていますね」。

最後に、英語を学ぶ学生へメッセージをいただいた。

「学生にとって、英語は国語・算数・理科・社会とならぶ五教科の中のつ、というイメージがもしれませんが、むしろの本当は、体育・美術・技術のような実技科目なんです。体育にたとえて言うなら、英会話学校が試合で、そのためどれだけ練習するかで上達が決まるんですよ。英語は身につけたら一生楽しめるし、旅行もいける、友達も増える、視野も広がる。日本語を好き嫌いで判断しないように、英語も好き嫌いで判断しないで、言葉として楽しんでもらえたらなあ、と思います。楽しむ気持ちが一番重要なんです。僕は今は、英語自体というよりも、英語の授業や執筆を楽しんでいる自信があります。イチローが野球を楽しんでいるのと同じくらいね」。

## Q&A

### 起床から家を出るまで何分？

45分から1時間くらいです。

その日の勤務場所にもよりますが、早い時は5時45分に起きて、6時30分に家を出ます。その他は、6時20分に起きて、7時20分に家を出ます

### 睡眠時間は？

4時間～5時間です。

授業の空き時間には、15分くらい昼寝もします。

### 今、一番やりたい場所は？

温泉。

旅館にこもって作家生活みたいなことをしてみたいです。

### 休日の過ごし方は？

基本的に授業がない日は、カフェで原稿を書くことが多いです。

あとは、落語や漫才を聞きに行ったり、セミナーに参加したりしています。

### マイブームは？

漫才と落語。

ネタの構成の癖か、どのようなテンポで話し、どのような間の取り方が面白いのかなど、というテリバリにも興味があります。

### おすすめの本は？

最近読んだ中では、今年でプロ野球楽天ゴールデンイーグルスの監督を退任された野村克也さんが書いた『刺客の兵法』。野村さんの著書はどれも参考になります。

シム・キャリーが出ている映画、特にLiar Liarが好きです。

学生時代には、この映画を何度も見て、英語フレーズを学びました。

### もし人生がやり直せるなら？

プロ野球選手を目指してみたいです。

### お気に入りのブランドは？

特にありません。ブランドよりも、デザインや機能性で選んでいます。

### 大切なこと？

目標を持って、日々楽しむこと。

目標を書き出したり、目標について人と話したりすることが実現の第一歩。今後も様々な目標に向かって楽しんでいきたいと思ひます。ことが実現の第一歩。今後も様々な目標に向かって楽しんでいきたいと思ひます(笑)。